



地域の構成員として地域を守る取組に参画

殿垣内資源保全会ほか7組織（広島県庄原市）

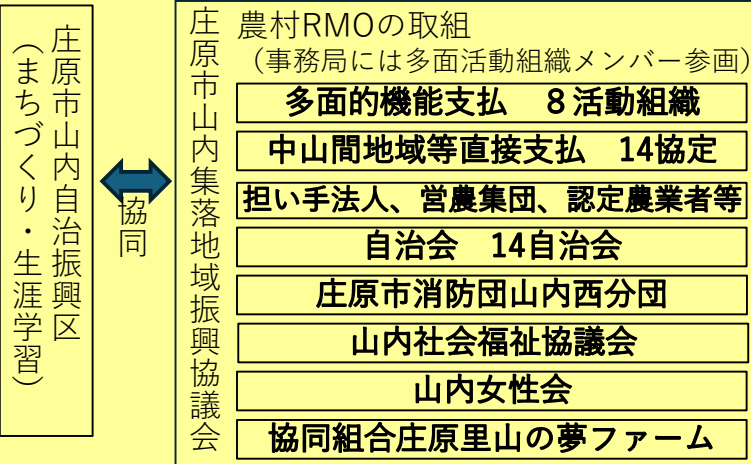
- 殿垣内地区を含む広島県庄原市山内地区は、広島県東部の庄原市の西部で庄原市街と三次市街の中間の中国山地のふもとに位置する中山間地域であり、地区内の竹林整備で発生した廃材の竹を堆肥として活用したブランド米「里山の夢」を生産している稲作地帯である。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地域ぐるみで地域資源の保全活動を実施しているが、活動参加者の高齢化、減少など地域自体の活力が低下していることを実感している。
- 農地の保全活動だけでなく、ブランド米生産や地域の活力を確保し、地域を存続させていくために、新たな取組を行っていくことが必要との危機感を地域住民それぞれが有している。
- 活動組織は地域の構成員として、自治振興区全体（小学校区）で取り組む農村RMOモデル形成支援事業の実施にあたって会議や視察に参加するなど地域の合意形成に協力。

地域の状況や課題

- 庄原市は生涯学習を地域住民主体で行っていた公民館の制度をまちづくりも地域住民主体で行う自治振興区に制度を改革。更に市単独事業で自治振興区に支援を実施。
- 地域資源である竹を有効活用する取組を行い、ブランド米の栽培を開始。
- 高齢化・人口減少によって、ブランド米生産農家が減少し、ブランド米生産が需要に追いつかない状況。
- 多面的機能支払交付金の事務作業の労力が負担となり、一部活動組織は事務作業を庄原市土地改良区に委託。
- 40年以上前に整備された農地は老朽化し、農家が減少している状況の中、更なる生産性向上が求められている。

地域みんなでの取組

- ブランド米生産の確保や地域の活力維持のためには新たな取組が必要との危機感から自治振興区として新たな事業に取り組むことを決意し、多面的機能支払交付金の活動組織をはじめとする地域の組織が庄原市山内集落地域振興協議会を設立し、自治振興区と一体となって農村RMO事業の取組を開始。



【地区概要】

- （殿垣内資源保全会ほか7組織）
- ・ 取組面積：288.2ha
（田 288.1ha、畑 0.1ha）
 - ・ 資源量：水路 65.4km、農道 40.3km、ため池 39箇所
 - ・ 主な構成員：農事組合法人、営農組合、自治会他
 - ・ 交付金 11.6百万円（R6）

農地維持支払
資源向上支払(共同)

地域の一員として

- 農村RMO事業が採択後、地域の将来にむけて、数々の取組を実施。
- 多面的機能支払交付金の活動組織も、農地の保全活動を行いつつ、意見交換会、先進地視察等に積極的に参加。
- 地域の農業、農地を守っていくため、ほ場の再整備について、合意形成を始めるなど新たな局面に進捗。



山内地区 圃場再整備説明会を開催



説明会の流れ

説明会の様子

・ 開会・講師紹介

Step1 (H19～)

農地・水・環境保全向上 対策に取り組む

- ・山内地区全体で平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、共同活動を実施。

ブランド米の生産

- ・地域の生産者が庄原市、JA農業指導員、県立広島大学、県農業技術指導所などと連携し、何年もかけた試行錯誤の末、自慢のおいしさを実現
- ・里山の整備で伐採した竹を活用し、独自の堆肥を利用。



課題

- 農業従事者の高齢化・減少によって、ブランド米の生産面積が減少。
- また、人口減少・高齢化によって農地の保全活動や地域の暮らしにも支障

Step 2 (〇〇)

一部活動組織が事務を委託

- ・活動組織の構成員が高齢化するなかで、負担の大きい事務作業について、土地改良区に委託。

Step 3 (R4)

農村RMO事業への関心

- ・自治振興区により取組が進められる中、地域の課題は深刻化
- ・「里山の夢」の協同出荷を行う「協同組合庄原里山の夢」の経営コンサルタント担当、地域活性化伝道師から農村RMO形成推進事業の紹介

Step 4 (R5)

農村RMO「庄原市山内集落 地域振興協議会」の設立

- ・地域運営の限界を感じる中、農用地保全・地域資源活用・生活支援が地域の理想に合致。
- ・令和5年6月に農村RMO「庄原市山内集落地域振興協議会」を設立。

- ・地域住民によるまちづくりを行う自治振興区と協議会のメンバーは重複しており、円滑な情報共有、意見交換が可能。

Step 5 (R5～)

将来に向けての検討・合意形成 の取組

- ① 地域住民の理解醸成のための説明会の開催
- ② 情報共有や理解促進に向けた「農村RMO通信」の発行
- ③ 地域住民へのアンケートの実施、結果は「農村RMO通信」で共有。
- ④ 獣害対策や特産品開発、農地保全など関係する分野での先進地視察

- ・竹の粉碎機は庄原市からの支援によって確保



＜農村RMOに取り組むにあたっての苦労した点＞

- 「そもそも農村RMOって何だ」、「何をやる」としているのだ、農村RMOについて理解を深めるための取組が必要であり、粘り強く説明。3年目になり、浸透しつつある。ほ場の再整備の説明会にも多数参加。



地域の将来を考える意見交換会

広報誌による募集

『食用サボテン試験栽培』参加者募集！

農村RMO事業で、遊休農地の活用対策として食用サボテンの試験栽培を実施します。現在、200株の苗を育苗中です。
山内自治振興区内の方で10名程度の参加者を募集します。
締め切りは、11月15日(金)です。
山内自治振興センターへお申し込みください。

農家が始めた6次産業化『むすびの店』視察参加者募集！



農村RMO事業で、むすびの店プロジェクトを計画しています。以下の日程で視察を実施します。
日時：令和6年11月14日(木)9時出発～17時30分帰着
場所：岡山県備前市香登本 1061-1 いちばんファーム(むすびの店「穂の蔵」)
参加費：1,000円(食事代)
申し込み：11月8日(金)までに、山内自治振興センターへお申し込みください。

スマート農業に対応する『圃場の再整備』視察参加者募集
山内地域は、総合パイロット事業等約40年前に圃場の基盤整備が完了しています。現在、営農を行う上で圃場や水路・水路の老朽化が顕著となっている中、中山間直接支払や多面的機能維持の補助事業を活用し修繕・管理を行っています。

今後の展望

- ICTやドローンを活用した獣害対策の調査・研究及び捕獲のための対策を計画する。将来的に画期的な方法を模索し地域産業へつなげる。
- スマート農業技術が活用できるほ場に再整備し、地域農業の継続・維持につなげる。
- ブランド米「里山の夢」の普及を図り、地域の産業として生産者・面積の拡大を図る。また、米粉を使ったスイーツ等やむすびの店など関連産業の振興を図る。
- これらを達成することで、若者世代が地域で活躍できる経済的基盤を確立する。



農村RMOは、住民の生活支援などに加え、農業・農地に関する活動を支援する組織のモデルづくり事業です。

初心者対象の草刈講習会を開催しました！！



初心者が草刈機を使う段階でぶつかる課題、悩みとして、
①エンジンがかからない、②替え刃の取り替え方法、③混合燃料(1:50)の作り方・・・などなど、疑問